

くすの木通信

三高だより第181号

精力善用 自他共栄

特活課長 尾崎信也

9月21日・22日に文化祭と体育祭がコロナウイルス感染症の予防対策を行った上で開催されました。残念ながら保護者の皆様にその様子を御覧いただくことはできませんでしたが、3年生を中心に、クラスメイトや部員たち、グループのメンバーと協力して活動する姿は感動的でした。制限下ではありましたが、素晴らしい経験をすることができたのではないかと考えております。物事を行う上で、周囲の人々との協力なくして行うことはできません。社会に出て仕事をしていく上でも非常に大切なことであるといえます。今回の経験はこれからの人生において必ず生かすことができるものだと考えています。厳しい状況下でしたが無事に開催できたことを、関係していただいた方々に心から感謝申し上げます。

「精力善用」「自他共栄」という言葉があります。これは日本発祥のスポーツで唯一のオリンピック種目である柔道の創始者で、日本で初めてのIOC（国際オリンピック委員会）委員になり、オリンピックを日本で開催しようと世界中を奔走した「嘉納治五郎」が、柔道の修業を行う上で大切なこととして示した言葉です。「精力善用」とは、自分の心身の力を最大限に発揮して、社会や他人のためになる良い方向に用いることです。また、「自他共栄」とは、相手を敬い感謝することで信頼しあい助け合う心を育み、自分だけでなく他の人と共に栄える世の中にしようとするということです。これらの言葉は学校生活においても生かすことができるものであると考えます。努力して身に付けた力（勉強・運動等で）を良い方向に生かすこと、そして、周囲を思いやり互いに高め合うことで大きく成長すること、というように置き換えることができます。

コロナウイルスという見えない敵との戦いがはじまり2年が経過しようとしています。突然の休校や様々な制限で学校生活や友人たちとの時間が突然失われました。修学旅行等の学校行事が中止となり、部活動では県総体をはじめ多くの成果を発表する場が中止となるなど、当たり前だった日常が当たり前ではなくなりました。このような時だからこそ「精力善用」「自他共栄」という言葉を胸に学校生活を送ることで、思いやりのある、活気ある学校になるのではないのでしょうか。